

MACF礼拝説教要旨

2022年9月25日

「弟子たちの喜び・イエスさまの喜び」

ルカによる福音書10章17節～24節

10:17 七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」

10:18 イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。

10:19 蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。

10:20 しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではいらない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

10:21 そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。

10:22 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく、父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかには、だれもいません。」

10:23 それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたのしているものを見る目は幸いだ。

10:24 言うておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞いたかったが、聞けなかったのである。」

1) 弟子たちの報告と喜び

「収穫のための働き手」としての自覚をもって「平和の挨拶をしながら、相手の存在を受け止め、相手からの接待に感謝し、病気の人に寄り添い、手当し、一緒に喜び、一緒に泣き、神さまの取り仕切りを伝え、分かち合い、信頼を得て、励ましや慰めを一緒に味わう」それによって、もたらされる喜びや祝福は、弟子たちにとって今まであまり経験したことのないものだったようです。

そういうなかで、彼らは関わった人たちとの間に信頼関係が生まれ、生きることを励ますことを体験し、まるで「相手から憑き物が去っていく」ような解放感をここそこで味わったのです。弟子たちにとっては、それはまさに「勝利の味」であり、イエスさまのお名前の威力はすごいと心底感じたと思います。これさえあれば、もう怖いものなどなにもないような気分になったと思います。

「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」

と彼らは報告していますが、イエスさまのお名前でもたらされる「相手の心の変化」「安息」「解放感」はすごいと体験したのです。

イエスさまの名前で心を合わせて祈る時、解放がもたらされる。
慰めや癒やしがもたらされ、平和がもたらされ、神の国、まさに神の支配の中に包まれるような解放感、安堵感があると知り、嬉しくて嬉しくてはしゃぎたくなるほどだったのです。

2) イエスさまの忠告

イエスさまは、弟子たちの喜びをうなずき、ご自分が考えていた通りのことが弟子たちによって体験されたことを喜ばれました。

イエス様への信頼によって、人間の幸福を妨げているさまざまな力、当時は、どんな病気も不幸も「自分の罪のせい」とか「靈的魔物のせい」とされていたわけですが、それらのものを粉碎し、「平和の挨拶とイエス様のお名前に対する信頼と神さまの支配に囲まれているという確信」によって「心の平静」がもたらされることをイエスさまは弟子たちにしっかり確信させました。

しかし、同時にイエスさまは

「10:20 しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

と語り、解放者としての高慢から守られるように、神に知られている存在として生かされ、

遣わされていることを喜ぶようにと諭されました。

「私達にはイエスの名という力があり、解放者なのだ」という自信はあってもよいのですが、その自信と自慢ばかりが前に出てしまうと、いつの間にか、弱者に対して「上から目線」の態度で近づく靈能者ようになってしまいます。

基本的に「何もっていない存在」だった彼らが「神の平和と癒やしとその支配に囲まれて生きる幸せ」を分かち合うために送り出されているに過ぎないのですから、靈的高慢も貧しさからの卑屈も心に入り込まないように注意しなければなりません。

3) イエスさまの喜び

これらの弟子たちの報告はイエスさまの心をととても喜ばせました。

でもイエスさまの喜びは、私達が考えるものとは違っているように思います。

いわゆる「成果を喜んでいる」というのとは違うのです。何人癒やされ、何家族が自分たちを受け入れてくれたとか、そういう尺度への感謝ではないのです。

10:21 そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。

これは、いわば「今まで世の中で軽蔑の対象であった弱者の集団が、神に遣わされ世のため、人のために有益な存在として働けるようになった」ことへの感謝です。

弟子たちは、彼らの以前の職業を考えたら、ほとんど「社会的弱者」の立場の人間でした。漁師も徴税人も国粋主義者も、社会の中では評価されない、無学の人、貪欲な人、極端な発想を持っている人であり、人々に友として迎えられにくい人たちでした。

乱暴な飲み友だちはいたかもしれません。でも、当時の社会的エリート集団からは軽蔑の対象でした。

そういう人たちが「平和の挨拶をし」「病める人に寄り添い、世話をし」「神さまがきつと守ってくださいますから大丈夫、安心してください」と分かち合っている、そして彼らを受け入れた人たちの人生に確かに「希望」「光」「喜び」「解放」「救い」がもたらされている。それは大きな大きな喜びでした。

イエスさまは父なる神様がイエス様を遣わし、そしてイエスさまが世の中の取るに足りない人たちを集め、教え、遣わし、そんな弟子たちが「人たちの心に幸せが届くための働きを喜んで実行している」

これは本当に大きな喜びだったと思います。

つまり、イエスさまの喜びは

「あなたが誰かの平和のため、癒やしのため、神への信頼に生きるために、一生懸命、謙遜に、相手の中に飛び込んで、低くされながら働くこと」にあるようです。

それは人からの評価とは無関係かもしれません。

そんなことをして何になるの。誰の得になるの、と言われるかもしれません。

でも、そこに「平和を必要としている人、癒やし、解放を必要としている人、神への信頼を必要としている人」がいて、あなたがその人のために「遣わされている」なら、その人に目をとめ、足をとめ、時間を用いて、奉仕することは神さまの喜びとなるでしょう。

それはまさに「小さな者たちの絆づくり運動」「神さまからのいてくれてありがとうを共有する運動」のような生き方です。

あなたもきっと、その運動に招かれ、遣わされていると思います。

あるいは、誰か、それを分かち合ってくれる人が案外身近にいてくれるのだと思います。

この言葉はあなたに何を語っているでしょう。

10:21 そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。

MACF礼拝映像はこちら

https://youtu.be/v1_FintNCHM